愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2023年度	開講期(Semester)	前期
授業科目名(Course name)	保育実習事前指導ＩＢ		
担当者(Instructors)	伊藤 龍仁	配当年次(Dividend year)	2
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	選択

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)

保育実習ＩBに取り組む事前指導の一環として、保育実習に臨む姿勢を醸成し、保育実習の意義と目的、実習対象施設の種別と目的、対象児者、実習内容等を理解し、実習課題の明確化を図るための諸課題（ロールプレイ、サービスラーニング等）に取り組む。なお、本科目の履修は「保育原理」「保育内容総論」「社会的養護」の単位をすべて修得済みであることが必須の条件である。

■授業形態・授業の方法(Class form)

授業形態(Class form)	演習
授業の方法(Class method)	ディスカッションを取り入れた対面授業により福祉施設実習を行うために必要な知識や姿勢、注意点等に関する情報提供し、ワークシートにアウトプットさせて定着化を図る。実践経験を補うために計画書を作らせてフィールド・ワークのサービス・ラーニングに取り組ませ、実施後に報告書を提出させる。実際の実習場面を想定したロールプレイに取り組ませて動画撮影させて表現力とコミュニケーションスキルを育む。配属施設をイメージさせながら実習計画書の作成作業に取り組ませる。学習効果を高めるために一部の授業と書類作成をオンライン上で実施し、提出課題・書類等への添削・コメント記入後に返却するとともにプラットフォーム上での質疑応答に対応する。

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)

回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	履修オリエンテーション 自己紹介ロール・プレイ	保育実習ＩBの事前指導と位置づける本授業の履修方法を説明し、実習に向けてのアンケートを記入させる。実習時の自己紹介を想定したロール・プレイに取り組ませて課題提出させる。	□
第2回	サービス・ラーニングについて	保育実習ＩBの実習条件と定めているサービス・ラーニングに取り組む意義と方法を説明し、実施計画書を配布する。	□
第3回	福祉施設実習の意義と目的	福祉施設で行う保育実習ＩBの意義と目的の説明を行い、意欲喚起を図る。	□
第4回	福祉施設の理解 配属希望アンケート	福祉施設の種別と特徴についての講義を行い、施設種別ごとの配属希望アンケートを配布して回収する。	□
第5回	福祉施設を利用する子ども・障害児者の理解	福祉施設を利用する子どもや障がい児者に関する講義を行い、ワークシートに記述させる。	□
第6回	福祉施設職員とその職務の理解	福祉施設職員及びその職務に関する講義を行い、ワークシートに記述させる。	□
第7回	福祉施設の生活と実習生	施設生活の特徴と実習のポイントを解説し、ワークシートに記述させる。	□
第8回	実習想定ロール・プレイ	施設実習の一場面を想定したロールプレイを実施して課題提出させる。	□
第9回	福祉施設における実習の内容と方法	福祉施設における実習の内容と方法について解説し、ワークシートに記述させる。	□
第10回	配属施設（施設種別）の仮発表	希望アンケートに基づき調整した配属施設種別案を提示して学生の意見を聞く。（⇒再調整）	□
第11回	配属施設の1次決定と施設実習の目標設定	1次決定した配属施設を学生公表して説明を加える。配属施設に基づいて作成する保育実習ＩBの目標設定と計画書について説明する。	□
第12回	課題と抱負（表面）記入方法と内容	課題と抱負の書き方を解説して理解させ、疑問点を質問させる。	□
第13回	課題と抱負（表面）の作成　一次提出	課題と抱負（表面）の各項目ごとに記入させ、課題として一次提出させる。	□
第14回	課題と抱負（表面）の完成	1次提出の課題と抱負（表面）を添削してコメントし、必要な修正作業に取り組ませる。表面完成版を課題提出させる。	□

第15回	施設実習に向けての決意表明	後期の授業と実習への意欲喚起を図り、全受講生に動画撮影させて決意表明をさせる。	□

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)

事前学習としてサービス・ラーニングを計画的に実施して報告書を作成すること。授業後には配布した資料、ワークシート等をポートフォリオにまとめ、実習計画書としての「課題と抱負」の作成を行う。以上の事前・事後学習を合計30時間以上行うことを義務づける。

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

ワークシートや提出課題については添削して評価を行い、授業内またはプラットフォーム上で返却して解説し、改善を図らせる。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
知識・技能	◆ 2019子ども発達DP1	保育士になるための資格に必須の知識と基礎的・実践的な技能を身につけることができる。
思考力・判断力・表現力	◇ 2019子ども発達DP2	現代の保育と福祉の現場に存在する多様な問題や課題に正面から向き合うために求められる視座と思考力を持ち、必要な表現力を習得できる。
主体性	◇ 2019子ども発達DP3	児童福祉施設の養護と保育に主体的協働的に携わるために必要な人間力を体得できる。

■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験（in-class exam)	その他(Other)
			30%	70%

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

提出課題、プレゼンテーション、コミュニケーション、参加姿勢から総合的に評価する

■テキスト(Textbooks)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	保育士をめざす人の福祉施設実習〔第2版〕愛知県保育実習連絡協議会・「福祉施設実習」編集委員会　編 編集代表：伊藤貴啓・小川英彦	9784860153083
2		
3		
4		
5		

■参考図書(references books)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1		
2		
3		
4		
5		